

スマホ映画祭 初の試み

映像制作者ら来月開催

長岡市の映像制作者ら有志がスマートフォンで撮影した短編作品を募り、視聴者もスマホで楽しめる「長岡スマホ映画祭」を3月に開催する。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で会場に観客を集める形式の映画祭が難しい中、新たな方法で長岡の魅力を発信し、地域の盛り上げにつなげたい考えだ。

各地で映画祭の延期やオンライン開催が相次ぐ中、市内のアートディレクター高野宙さん(33)が呼び掛け、映像関係者や専門学校生ら数人で実行委員会を結成。昨年12月から準備を進めている。

高野さんによると、スマホの機能向上や編集アプリの登場により、高価な機材や撮影経験がない人でも手軽に映像作品が作れるようになった。今後は映像の質よりも独自の視点や見せ方が問われる時代になるとみて、内容に重点を置くコンペティション形式の映画祭として企画した。

「あなたしか知らない長岡の魅力」をテーマに、

投稿サイトで公開、審査

地域の魅力収めた短編募集



「長岡スマホ映画祭」の開催に向けて打ち合わせをする実行委員会
＝長岡市大手通2

の物語を募集。個人や5人までの団体から出品を受け付けている。実行委は「ストーリー性や世界観、

スの影響による閉塞感の打破につなげたいとの思いもある。メンバーの専門学生、珊瑚優香さん(20)は「学校行事が軒並み中止となり、友人にも会えない日が続いている。思い出作りの意味でも、特に若い世代に参加してほしい」と呼び掛ける。

応募作品は3月1～8日に動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開し、審査も行われる。審査員には現役俳優や映画関係者を予定し、最優秀賞(賞金10万円)をはじめ、部門賞、一般視聴者の人気投票による賞を設ける。

公式サイト開設を準備中で、21日午前9時～正午には制作について助言するワークショップをオンラインで開催する。実行委のメンバーで映像クリエイターの小川祥太さん(27)は「プライベートでも動画投稿が当たり前の時代になり、応募のハードルは高くないはずだ」と多彩な作品を待っている。

問い合わせはメールで実行委 TheNagaokaCC

